

令和4年度 第3回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日時 令和5年3月14日(火) 14:00～15:30
2. 出席状況 委員10名(川染会長、明吉委員、遠藤委員、小須田委員、小林心委員、小林三夫委員、古谷田委員、泉水委員、橋本委員、服部委員)
事務局4名(文化振興課長、文化振興係長、文化振興係2名)
3. 傍聴人 傍聴人なし
4. 議題
 - 1 開会
 - 2 大和市文化芸術振興基本計画の策定について(意見交換)
 - 3 文化芸術に関するアンケート調査について
 - 4 その他
 - 5 閉会
5. 会議資料
 - 資料1 文化芸術振興基本計画(第4期)の策定に向けて
 - 資料2 文化芸術振興基本計画(第4期)の策定スケジュール
 - 資料3 他市町村の計画の策定状況について
 - 資料4 文化芸術に関するアンケート調査の実施について
 - 資料4-1 大和市文化芸術に関する市民アンケート調査票(案)

【会議要旨】

- 1 開会
- 2 大和市文化芸術振興基本計画の策定について(意見交換)
 - 委員
以前の会議で、若い世代の人口が増えていると聞いたが、現在の大和市の若い世代の流入状況について聞きたい。
 - 事務局
本市の流入人口については、マンションの建築が増えたことや子育て施策の成果もあり、子育て世帯の流入人口は多くなっている。一方で、文化・芸術に親しんでいる方や担い手については、高齢化が進んでいる。今後、若い世代の流入人口が増え続けることはないので、将来的には、国全体で少子高齢化が進んでいくことを踏まえて、この5年間の第4期計画を考えていきたい。
 - 委員
やまとニュースで、おひとりさまに関する記事を見た。大和市は、おひとりさま世帯の割合が全国に比べて何%程高いのか。そのような状況を踏まえて計画に反映した方がよい。
 - 事務局
本市の高齢者世帯のうち、単身世帯の割合は約40%で、全国平均34%より高い状況にある。そういったことも踏まえたうえで、次期の計画を策定していく。
 - 委員
資料3について、文化芸術推進基本計画が策定されたのが平成30年であるが、平成30年以前に策定されている市町村があり、国よりも先に策定すると国の計画を参酌せずに、策定しているのではないかと。また、大和市は平成31年に計画が策定されているが、大和市は他市町村よりも計画策定が遅れていると解釈できる。
 - 事務局
文化芸術振興基本法は平成13年に施行され、その後、平成29年に「文化芸術基本法」に改

正された。その際に各自治体が策定する文化芸術に関する総合的な計画を「地方文化芸術推進基本計画」とすることが明記され、本市においても第3期計画から同計画に位置付けている。本市は、平成21年に、大和市文化芸術振興条例を制定し、平成22年に文化芸術振興基本計画（第1期）を策定した。そういった点から、大和市は比較的早い段階から文化芸術に力を入れていたと認識している。

○委員

SDGsを第4期計画に反映させるのか。

○事務局

SDGsについては、上位計画である総合計画に一部記載されており、第4期計画にSDGsを反映させるかは検討中だが、他の分野別計画とも整合するよう庁内で統一したいと考えている。

○委員

やまとニュースは、月1回全戸配布がされているが、いつから始まったのか。また、自治会に加入していない人にも配布されているのか。市民の掲示板にイベントや講習のお知らせが載っており、市民全体に事業を周知できるよい取り組みである。

○委員

広報やまとの配布は、自治連合会に委託しているので、自治会加入者しか広報やまとを手にとることができなかった。一方でやまとニュースは、全戸配布なので、自治会に入らなくても見ることができる。令和3年頃、広報やまとの発行回数を減らし、やまとニュースを配布するようになったと認識している。

○委員

広報やまとは、地域によって異なるかもしれないが、自治会に加入していない人にも配布している自治会がある。

○委員

やまとニュースをポスティングすると、見ないで捨ててしまうと聞いたことがあるので、以前のように自治会を経由して配布する方法に戻してほしい。

○委員

資料1に「オンライン鑑賞を通じて、実際に会場で鑑賞したい人が増えた。」とあるが、これは、根拠となるデータはあるのか。

○事務局

根拠となるデータはない。コロナ禍において、オンラインやインターネットでの鑑賞機会が飛躍的に伸びたことと、一方で、コロナが収束し始めており、実際に生の公演を開催すると、拍手や歓声などの、会場ならではの良さを改めて実感する声を耳にする機会が多くなっているため、このような記載をしている。

○委員

ホールの事業について、来場者数の変化はあるか。

○事務局

コロナが流行する前と現在を比較して、数値的にはほぼ以前の状況に戻っている。コロナ禍がようやく落ち着きつつあり、安心して鑑賞できる環境が整ったことが要因だと考えている。

○委員

部活動の地域移行について、大和市はどのように取り組んでいくのか。

○事務局

現時点で具体的な内容は決まっていない。教員の負担軽減や、少子化による学校単位での部活動が困難になることを懸念しており、このような課題の解決策の1つとして、地域の文化芸術

団体や民間クラブが指導者として、今の部活動を支えていけるようなしくみを検討している。しかし、現在は、学校での部活動は教育の一環とも捉えることができるので、教育もできる指導者を確保できるかなどが課題と考えている。また、現在の部活動は、比較的費用負担が少なく、だれでも参加できる環境が作られているが、地域に移行すると費用負担が増える可能性がある。子どもたちの間でも、部活動に参加できる人、できない人の格差ができてしまわないように、慎重に進めていく必要がある。

○委員

考え方によっては、地域の文化芸術団体にとっては、団体が発展できるチャンスである。一般の吹奏楽団が吹奏楽部を受け入れるとなると、環境整備や人材の問題もあるため、すぐには受け入れられないだろうが、顧問や音楽教諭よりもスキルがあるかもしれない。

○委員

学校教育だから子供の成長をいかに支援できるかを考えていく必要があるが、難しい問題だ。地域としてみれば、地域の文化芸術を発展することができる。教員の人手不足や働き方改革によって、残業できる時間も制限されているので、学校だけではなく、地域全体で子供たちを育てていくべきだ。

3 文化芸術に関するアンケート調査について

○委員

自由意見はどのくらいの回答があったか。

○事務局

割合は出していないが、予想以上に回答が多かった。文化芸術に対する思いを回答している印象がある。

○委員

自由意見を分析することが大事であり、数字に表れない背景を分析するのがよい。設問内容については継続性を見ることも必要なので、このままでよい。

○委員

アンケート結果は公表しているのか。自由意見も掲載されているか。

○事務局

ホームページで回答し、自由意見も掲載している。

○委員

問1～問8は、市内に限定せずに、全国・海外などの鑑賞・体験も対象か。

○事務局

市内に限定していないので、市外の鑑賞・体験も対象としている。

○委員

問9では、「大和市が実施している文化芸術事業」と書いてあるので、問8までの設問は、市内に限定していないことがわかると思うが、回答者は、この設問を見たときに市内に限定していないことが、読み取れるだろうか。

○事務局

設問に注釈で記載することも可能。市民に誤解を与えないような設問の記載を検討する。

○委員

インターネットでの回答は実施しないのか。

○事務局

平成28年度までは、PSメールを使ってアンケートを実施していた。PSメールに登録している人は、行政に関心の高い方が多いと想定されるため、平成30年度から無作為抽出のアンケート

トに変更した。電子データの回収は、現在の役所のシステムに限界があるので、今後の課題と感じている。

○委員

回答者の年齢層は高いことが予想され、これまでの会議でも若者を巻き込む方法を考えてきた。若者を巻き込むのは難しいと思うが、回答方法を郵送とインターネットの2つにするなど、工夫があるとよいのではないか。これからを担う若者の意見を得ることが課題だ。「大和文化百花」を開設し、若者が参加できる環境をつくり始めたのに、後戻りしている気がしてしまう。今まで若者を巻き込むことを課題にしてきているので、一歩踏み込んだ方法が必要ではないか。

○委員

大学では、アンケート回答は全て Google フォームになったが、学生の回答率は高くない。モチベーションを上げるような取り組みがあるとよいと思う。

○委員

積極的に回答してもらえるように回答者に景品をつけるのがよいと思う。

○委員

自身のコンサートでも、アンケートを取っているが、回答者の階層ができてきているような気がする。アンケートを書くのが好き、アンケートを積極的に回答したい人が回答している。おそらく市のアンケートも同じような人が回答しているのではないか。広範囲の市民から回答を得たいとなると、別の方法も検討するとよい。

○委員

若者は、アンケートを実施した意図を考える。アンケート内容をしっかり考えないと、予想外の回答がくる。

○委員

毎年同じアンケート内容であるが、アンケートの目的はなにか。このアンケートは、ただ単に、文化芸術への意識を図りたいのか。「文化の薫るまちやまと」を目標に実施しているものだと思うが、文化芸術に触れていない市民が、どうしたら文化芸術に関わっていくかを問う必要があると思うが、このアンケートからは読み取れない。統計を取るときは、このアンケート用紙だとよいと思うが、市民の本当の声は、自由意見に隠れているから、地道に分析し、大和の文化振興につなげてほしい。

市の事業の認知度を図る設問があるが、市民はどれだけ知っているのか。文化の薫るまちを掲げているのだから予算を投じて、ART100を全戸配布してはどうか。市の事業の周知にもなり、ART100に参加している団体も自身のイベントのPR となって団体に活気がつく。その冊子にアンケートを掲載して市民全体に伝えていくのがよいのではないか。大和市は、北・南によって文化が違い、市民が大和の文化をどこまで知っているかを計るのがこのアンケートの意義なのではないか。

○事務局

幅広い方の意見を聞く手法として、この審議会での議論のほか、市民意識調査や文化芸術団体へのアンケートを実施する。また、内容については、たとえばシリウスができてからの市民の意識の変化をみるのであれば、同じ設問を設定せざるを得ない。設問内容をその都度見直すのではなく、経年で変化を見ていくことを基本と考えている。コロナ禍や社会情勢などの特徴あることを設問に反映させていくかは、今後も検討していく。ART100は、イベントが集中する秋の時期に、市内で開催する文化芸術事業を1冊の冊子にまとめたもの。冊数に限りがあるので、現状、全戸配布は難しいと考えている。

○委員

前回の回答率が35%とのことだが、市の実施するアンケートの中でも低い。未提出者には、催促通知を送るとよい。そうすると10%近く回答率が上がる。

オンラインアンケートは重要だと思うが、郵送とオンラインは別物なので、回答は混ぜられない。アンケートは文化芸術の意識を計るものでもあるが、事業のPRにもなるので、ホームページやメールで周知したらよい。大和市はデジタルトランスフォーメーションに力を入れているので、検討するとよい。

問1の設問で市内に限定した設問かとの、話があったが、市内には映画館はないため、市内に限定していないことが読み取れる。

問1は過去1年以内に市内外で鑑賞した設問、問8は、過去3年間に市内公共施設で活動・鑑賞をした設問があり、視点が違う。問8の市内公共施設での活動だと、生涯学習も含まれてしまう可能性があり、文化芸術活動と回答が混ざってしまう。活動と鑑賞は分けた方がよいと思う。例えば、東京で鑑賞した人が、大和で鑑賞しているのかわからない。経年変化を見るためのアンケートなので、設問を変えてしまうのは良くないが、はっきり聞いた方がよいと思う。

フェイスシートが最後にあるが、最初に来るものではないか。性別については「答えたくない」との選択肢があるが、年齢も答えたくない人がいるのではないか。北・中央・南のエリアを記載すると、その地域の特色が見え、今後の対策がとれると思う。

○委員

PS メールに登録しているが、アンケートが時々届くので、今回のアンケートをメールで実施しても良いのではないか。

回答者への景品の話があったが、健康ポイントを活用するのがよいのではないか。

問10について、どんな情報から得たのかも聞くとよい。回答の多い情報源に力を入れて情報発信を行うとよい。

フェイスシートという表現は、馴染みがなく、違和感があるから別の言い方がよいと思う。

○委員

郵送調査とのことだが、地域によっては自宅周辺にポストがないので、回答に差があると思う。地域によって分けをしとくとよい。

郵送だけではなく、学習センターを窓口にするなどインターネット以外の方法も検討できるとよい。

○委員

郵便局の配達回数が減り、届くまでに時間がかかっているように感じている。アンケートの回収方法は検討できるとよい。

○委員

シリウスができる前にもアンケートを実施していると思う。シリウスができる前は、文化施設がなかった。シリウスができた後の、市民の文化のふれあいの場はどのように変化したのか。シリウスができた後の変化を中心とした計画を策定していくとよい。国の法律も計画も変わらないから、基本的に市の計画の内容は変わらない。地域の状況にあった計画を策定することが基本だと思う。

○委員

設問数を減らすと回答率が上がっていくのではないか。

○委員

アンケートの結果は、フェイスシートをもとに分析し公表されるか。現役世代の回答率が低いのではないか。

○事務局

アンケートの結果は次回の審議会で報告する。

4 その他

○市から、次回の文化芸術振興審議会開催日程について説明。

○委員より、自身の活動について説明。